

英国の環境・食料・農業省の研究活動

2007年4月26日

研究開発戦略センター

山田 直

本レポートは、JST 研究開発戦略センターの依頼により、コンサルタント山田氏が執筆したものであり、JST および研究開発戦略センターの組織としての見解を示すものではありません。また、本文中のリンクは、リンク先の状況によりアクセスできなくなる可能性があります。

— 目次 —

1. 戦略的重点活動分野	1
2. 研究予算	3
3. 研究の実施方法	5
4. 研究プロジェクト	7
5. 筆者コメント	18

— 変更履歴 —

1. 戦略的重点活動分野

近年、英国内においても気候変動および環境保護に関する関心が非常に高まっている。このような重要なテーマに関連しているのが、環境・食料・農業省（Department for Environment, Food and Rural Affairs：DEFRA）であるため、今月号では同省が助成する研究活動の概要を紹介する。

【戦略的重点分野】

- ・ 気候変動およびエネルギー
- ・ 持続可能な消費と生産
- ・ 田園地方および天然資源の保護
- ・ 持続可能な農村社会
- ・ 持続可能な農業および食料（動物の健康と福祉を含む）

1-1) 気候変動およびエネルギー

目的

- * 温室効果ガスの排出削減によって、英国による地球温暖化への影響を軽減する。
- * 危険な気候変動を回避するために、地球規模の温室効果ガスの排出を削減し、また避けることのできない気候変動への国際的対応を促進する。
- * すべての家庭が、十分かつ手ごろな料金にて暖房ができるようにする。
- * 大気環境を改善する。
- * 洪水および海岸浸食のリスクを、持続可能な方法によって管理する。

1-2) 持続可能な消費と生産

目的

- * 環境の悪化や持続不可能な資源利用をもたらさない経済成長を実現するためのプログラムを構築する。
- * 廃棄物の量を削減し、再利用、リサイクリングまたはエネルギーの回収等を通じて、人間の健康と環境を保護する。

1-3) 田園地帯および天然資源の保護

目的

- * 現在および次世代のために自然環境を保護し、また環境面からの制約を尊重する将来の開発のための強固なフレームワークを構築する。
- * 特に健康と快適な利便性を享受することが困難な人々に対して、より多くの、又より良い自然環境へのアクセスを提供する。
- * 水の供給と需要の持続可能なバランスを保ちながら、高品質の水と良い水の環境を実現する。

1-4) 持続可能な農村社会

目的

- * 最も機能的でない農村地域と平均的なイングランド地方とのギャップを埋めるために、リソースを重点的に投入して、イングランドの農村全域の活性化を図る。
- * 各種のサービスや手ごろな価格帯の住宅への公平なアクセスにより、農村地域の社会的疎外の解消に取り組む。

1-5) 持続可能な農業および食料（動物の健康と福祉を含む）

目的

- * 顧客に焦点をあてた、競争力のある持続可能な農業を実現する。
- * 競争力があり、持続可能な食品業界を実現する。
- * EUの共通農業政策（Common Agricultural Policy：CAP）改革を促進する。
- * 家畜の健康と福祉を改善し、また産業界と共にリスク管理を共有することによって、動物の病気から社会、経済および環境を保護する。

2. 研究予算

上記の5つの重点戦略分野に取り組むための、DEFRAの2006-07年度年間予算は、研究、モニタリングおよび監視を合わせて、約3億3,000万ポンド（約760億円¹）であり、そのうち研究予算は約1億5,000万ポンド（約350億円）である。

【研究および政策関連予算】

（単位：千ポンド）

戦略分野および関連政策分野	2005/06 R&D	2006/07 R&D	2006/07 非 R&D	2006/07 合計
気候変動とエネルギー				
気候変動	15,227	17,327	46,600	63,927
家庭の暖房	1,200	1,200	—	1,200
洪水および海岸侵食へのリスク管理	2,425	2,425	1,100	3,525
大気環境の改善	9,699	10,599	—	10,599
持続可能な消費と生産				
持続可能な消費と生産（関係の分断化）	2,730	3,630	—	3,630
廃棄物および資源管理	3,770	5,104	13,400	18,504
化学物質およびナノテクノロジー	3,867	3,867	—	3,867
田園地帯および天然資源の保護				
自然環境の保護と改善	6,821	7,180	1,079	8,259
自然環境へのアクセス	100	100	—	100
水の品質および環境	2,119	3,019	4,710	7,729
持続可能な海洋環境	10,666	10,725	18,167	28,892
放射性物質	319	319	1,848	2,167
持続可能な農村社会				
農村企業および社会的疎外	821	2,243	—	2,243
持続可能な農業および食料 (動物の健康と福祉を含む)				
持続可能な農業と食料	38,464	34,019	5,476	39,495
動物の健康と福祉 (魚類を含む)	38,889	39,231	88,836	128,067
農薬	5,459	5,459	2,830	8,289
合計	142,576	146,447	97,142	175,8513 0,493

* 上記のほかに、「地域の環境の質」に関する研究開発に対して、2005-06年度および2006-07年度とも、各年間800万ポンド（約18億円）の予算が付けられている。

*

¹ 当月報においては、1ポンドをすべて230円にて換算した。

(参考資料：「Science Review」 <http://www.dti.gov.uk/files/file35751.pdf>

「DEFRA's Evidence and Innovation Strategy 2005-2008」

www.defra.gov.uk/science/how/documents/PDFs%20in%20Parts/Annex%201%20and%202.pdf)

3. 研究の実施方法

DEFRA の研究成果の大きな部分は、以下の DEFRA 所管の 3 つエージェンシー (Executive Agencies) を通じてもたらされており、DEFRA は、これらのエージェンシーの年間予算の約 3 分の 2 以上を助成している。

- * 中央科学研究所
(Central Science Laboratory : CSL)
- * 環境、漁業、水産養殖科学センター
(Centre for Environment, Fisheries and Aquaculture Science : CEFAS)
- * 獣医学研究所エージェンシー
(Veterinary Laboratories Agency : VLA)

又 DEFRA は、環境エージェンシー (Environmental Agency) に対して年間約 1 億ポンド (230 億円) の研究補助金の交付を行うと共に、気象庁 (Met Office) 所属の Hadley Centre や、以下のような研究会議所属研究所の研究活動に対する助成も行っている。 :

- * 英国地質調査所 (British Geological Survey、自然環境研究会議所属)
- * 生態学・水理学研究センター (Centre for Ecology and Hydrology、同上)
- * ロサムステッド研究所 (Rothamsted Research Laboratory、バイオテクノロジー・生物科学研究会議所属)
- * 家畜衛生研究所 (Institute for Animal Health、同上)
- * 草地/環境研究所 (Institute of Grassland and Environmental Research、同上)

現在、DEFRA はバイオテクノロジー・生物科学研究会議 (BBSRC) 所属の研究所には年間約 2,000 万ポンド (46 億円)、自然環境研究会議 (NERC) 所属の研究所には年間約 700 万ポンド (約 16 億円) の研究助成を行っている。上記にあげた機関は、大手の研究助成先であるが、このほかに DEFRA は現在 800 以上の機関から研究成果の提供を受けている。

【主席科学顧問裁量の研究開発予算】

DEFRAには、主席科学顧問²の裁量に任された、約 650 万ポンド（約 15 億円）の研究開発プログラム予算があり、海洋エコシステムに対する将来の選択肢のシナリオや、英国のフード・チェーンへの研究等、将来の戦略的研究開発に配分されている。また、この主席科学顧問裁量予算から、「シードコーン・ファンド」の形にてDEFRA所管のエージェンシーの研究プロジェクトに助成される。「シードコーン・ファンド」の目的は、所管エージェンシーがDEFRAの変化するニーズのペースに歩調を合わせることができるよう、エージェンシー自身のコアとなる科学的能力を支援することにある。

(参考資料：<http://www.dti.gov.uk/files/file35751.pdf>
http://www.defra.gov.uk/science/what/csa_RD_budget.htm)

² 英国の主な省庁には、省庁主席科学顧問（Departmental Chief Scientific Advisor）職が置かれており、大学教授が一定期間出向する形で主席科学顧問をとつめることが多い。

4. 研究プロジェクト

DEFRA が公表している、1997 年から現在進行中の DEFRA の研究プロジェクトまで、政策分野別のプロジェクト数を下記に示す。なお、一つのプロジェクトが、いくつかの分野にまたがるのがよくあり、その場合は、一つのプロジェクトが、関連するいくつかの分野に重複してカウントされている。そのため、以下の表のプロジェクト数の合計は、実際に実施されたプロジェクト数より多くなっているが、DEFRA がどの分野に興味をもっているかを知るための参考となると思われるので、ここに紹介する。

【研究分野別プロジェクト数】

(1997 年以降)

研究分野	プロジェクト数
農業と気候変動	19
大気の質	120
動物の福祉	265
耕地作物	368
牛海綿状脳症（BSE）と感染性海綿状脳症（TSE）	125
化学物質、遺伝子組み換え生物、ナノテクノロジー	113
海水魚資源の保護	158
田園地帯と野生生物イニシアティブ	121
病気の防止	288
経済と統計	62
風土病と動物原性感染症	175
環境保護（農業）	944
耕作森林地帯	62
農耕地の保存	299
魚類の養殖および貝の生産	255
洪水および海岸の防護	208
食品・飲料産業および競争力	324
顧客のニーズに合ったフード・チェーン	35
地球の大気	95
園芸	726
土地の利用	28
海洋の環境	336
騒音	86
非食品用作物	160
有機栽培	232
農薬の安全	217
植物の遺伝子資源	26
植物の健康	118
植物の多様性と種	26
放射性物質	27

農村経済	61
鮭、捕鯨および内水面漁業 (Inland Fisheries)	62
科学政策	544
持続可能な消費と生産	49
持続可能なエネルギー	17
持続可能な農業システムと生物の多様性	27
持続可能な畜産業	566
獣医薬	70
廃棄物	46
水資源政策の広報と研究	127
水の品質と利用	23
野生動物の管理	105

(参考資料：http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/subject.asp?SCOPE=0)

上記のように、DEFRA は数多くの広範囲の研究を所管のエージェンシー、研究会議およびその他多くの研究機関に委託しているが、その中から 5 つの戦略的重点分野の研究のみに絞り、現在実施されている研究テーマの一部を紹介する。

4-1) 気候変動とエネルギー

(単位：1,000 ポンド)

期間	プロジェクト・テーマ	委託機関	予算
気候変動			
2004-07	生息環境の多様性および耕作地のエコシステムへの天敵	ロサムステッド研究所 (BBSRC)	769
2000-07	衛星搭載用・最新型アロング・トラック走査放射計 ³ の製造	EADS Astrium 社	1,553
2003-07	LINK ⁴ 2003	イースト・アングリア大学	391
2003-08	英国の温室効果ガス排出量と4地方 ⁵ の排出量	国立環境技術センター (NETCEN ⁶)	2,559
2004-08	最新型アロング・トラック走査放射計からのデータの活用	Space ConneXions 社	2,928
2005-10	英国気候インパクト・プログラム 2005	オックスフォード大学	3,992
2005-08	気候変動による、中国の農業へのインパクト	AEA Technology 社	821
2006-09	IPCC ⁷ ワーキング・グループ II へのテクニカル・サポート	気象庁 (Met Office)	1,436
2006-09	英国におけるオゾンと紫外線の測定と分析	NETCEN	869
2007-09	21 世紀気候シナリオからの気候予測 ⁸	ニューキャッスル大学	303
2007-08	インパクトおよび適応研究のための気候予測ソフトウェア	研究会議中央研究所会議 (CCLRC) 等	902
2006-09	北極海観測システムの一環としての、南ノルウェー海峡の海洋フラックスの調査	環境・漁業・水産養殖科学センター (CEFAS)	251

³ Advanced along track scanning radiometer : リモートセンシング器機の一つ

⁴ Climate Impact LINKプロジェクトの一環 : LINKプロジェクトは気象庁のハドレー・センターと国内外の気候変動インパクト研究チームとの、より効率的連携の提供を目的とする。

⁵ イングランド、スコットランド、ウェールズおよび北アイルランド

⁶ <http://www.aea-energy-and-environment.com/>

⁷ Intergovernmental Panel on Climate Change : 気候変動に関する各国の政府間パネル

⁸ Weather Generator for Daily Time Series from the UK 21st Century Climate Scenarios

大気の改善			
2004-10	英国汚染気候モデリング・フェーズ 2&3	国立環境技術センター (NETCEN)	1,930
2004-07	英国における陸域生態系の富栄養化と酸性化	生態・水理研究センター	1,090
2003-07	英国の酸性化した水の監視ネットワーク、フェーズ 2	ENSIS 社	1,599
2003-08	英国の酸性雨のプロセス	生態・水理研究センター	1,375
2003-07	英国の大気汚染物質削減戦略の分析、フェーズ 5	インペリアル・コレッジ	534
2004-07	酸と窒素堆積物による、淡水と陸生の動植物へのインパクトを測定する限界的負荷と動態モデリングの研究	生態・水理研究センター	484
2006-09	国連経済社会理事会 (UNICE) の植生 ⁹ 国際共同プログラム	生態・水理研究センター	416
2006-09	植生に対する地上レベルのオゾンの影響	生態・水理研究センター	385
2004-07	土壌と水の表面の毒性金属への効果的アプローチ	ヨーク大学	378
2006-09	重金属堆積マッピング	生態・水理研究センター	580
2004-08	英国における粒子状物質の特性	バーミンガム大学	355
2005-07	英国の大気中の粒子状物質の集中度とその数、フェーズ 2	国立物理研究所 (National Physical Laboratory)	710
2007-09	対流圏オゾンのモデリング、フェーズ 2	AEA Technology	456
洪水・海岸防護			
2002-07	海洋管理における情報コミュニケーションの進捗調査	環境・漁業・水産養殖科学センター	248
2004-08	洪水リスク管理の研究コンソーシアム	工学自然科学研究会議 (EPSRC)、ヘリオットワット大学	900
2005-10	洪水のリスクおよびその管理方法の統合的プログラム「FLOODsite ¹⁰ 」への支援	環境エージェンシー	750
2004-07	複合型河口形態モデルの開発	自然環境研究会議 (NERC)、プラウドマン海洋センター	539
2004-07	システムベースの河口シミュレーターの開発	ABP Marine Environmental Research 社	235

⁹ Vegetation

¹⁰ <http://www.floodsite.net/>

エネルギー			
2005-07	家庭における温水消費の形態	エネルギー・セービング財団	295
2006-07	中小企業に対するエネルギー供給者の義務	National Economic Research Associates 社	71

(参考資料 : DEFRA

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=2&Cat1=13386&Cat2=13387&Cat3=&Cat4=&Cat5=

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=3&Cat1=13386&Cat2=13387&Cat3=14577&Cat4=&Cat5=

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/keyword.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=2&Cat1=13386&Cat2=13387&Cat3=&Cat4=&Cat5=

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=PI%3A070A

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=PI%3A120

[http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=PI:070F\)](http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=PI:070F)

4-2) 持続可能な消費と生産

(単位：1,000 ポンド)

期間	プロジェクト・テーマ	委託機関	予算
持続可能な消費と生産			
2006-08	技術的解決および持続可能な生活様式の選択のためのサプライ・チェーン・プラットフォーム ¹¹	ケンブリッジ・カウンティ・カウンシル	75
2005-07	食品生産と消費のインパクト	マンチェスター・マネジメント・スクール	143
2006-07	持続可能な商品へのレビュー	Scott Wilson Kirkpatrick 社	70
2006-07	観光産業の持続的発展のエビデンスと傾向のマッピング	SQL 社	72
2007	家庭における持続可能なエネルギー消費に対する国民の理解の増進	Brook Lyndhurst 社	72
2007	持続可能なレジャーと観光への国民の理解の増進	サリー大学	70
2007	持続可能な輸送に対する国民の理解の増進	Scott Wilson Kirkpatrick 社	77
廃棄物管理			
2001-07	集約的土地利用および肥料管理	ADAS UK 社	1,291
2001-07	家庭廃棄物調査	オープン・ユニバーシティ	125
2007-08	農業用地への家畜の糞尿量の全国マッピング	ADAS 社	200
2005-07	家庭廃棄物の防止政策の研究	環境カウンシル	160
2005-07	生活様式の変化が家庭廃棄物に与えるインパクトのモデル化	AEA Technology 社	178
2005-08	工業プロセスや廃棄物処理から出る残留物の特徴付け	WRc 社	425
2005-08	建築廃棄物の理解と予測	建築研究所 (Building Research Establishment Ltd)	225
2005-07	建築資材の生産のための、集約的廃棄物管理	Mineral Industry Research Organisation	260
2006-08	建築・解体廃棄物の再生洗浄工場における沈殿物の再利用	インペリアル・コレッジ	202
2006-07	台所から出るゴミの回収スキームへの参加の促進(家庭における行動と動機)	Brook Lyndhurst 社、Resource Recovery Forum 等	224

¹¹ http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/More.asp?I=EB01006&SCOPE=0&M=PSA&V=EP%3A120B

化学物質			
2004-07	広範囲な化学物質へのリスク削減戦略と利点と欠点の分析	Entec UK 社、Risk and Policy Analysts 社	133
2004-07	英国の淡水に生息する貝における内分泌攪乱物質の調査	ブルネル大学	150
2005-09	水生環境における内分泌攪乱物質の日英共同研究	エクスター大学	326
2006-08	河川流域におけるステロイドホルモンの濃度予測	生態・水理研究センター	148
2006-09	環境ナノサイエンス・イニシアティブ ¹²	自然環境研究会議(NERC)	300
2003-07	農薬のリスク評価の不確実性と変動性に対処するための、ウェブ・ベースのフレームワーク	中央科学研究所	280

(参考資料 : DEFRA

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=EP%3A120B

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=2&Cat1=15447&Cat2=15448&Cat3=&Cat4=&Cat5=

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=NR%3A110

[http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=PI%3A080A\)](http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=PI%3A080A)

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=3&Cat1=13386&Cat2=13484&Cat3=14582&Cat4=&Cat5=

¹² Environmental Nanosciences Initiative Programmes

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/More.asp?I=CB01095&SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=3&Cat1=13386&Cat2=13484&Cat3=14582&Cat4=&Cat5=

4-3) 田園地方および天然資源の保護

(単位：1,000 ポンド)

期間	プロジェクト・テーマ	委託機関	予算
自然環境保護と改善・持続可能な海洋環境			
2003-08	海洋動物相の集中的採取のインパクトに関する戦略的評価	環境・漁業・水産養殖科学センター	1,234
2002-07	「海洋モニター2」プロジェクトのための、生物を利用した技術の開発と検証	環境・漁業・水産養殖科学センター	857
2003-10	「集約的管理のための集約的科学 ¹³ 」：適応できるエコシステム管理の開発	環境・漁業・水産養殖科学センター	1,440
2007-10	「田園地帯調査（2007年）」	生態・水理研究センター	2,591
2005-11	「海洋エコシステム・コネクション」：深海底域と外洋域を通じた炭素と窒素の流れ	環境・漁業・水産養殖科学センター	1,776
2005-10	海洋モニタリングの分析手法の開発と改善	環境・漁業・水産養殖科学センター	1,150
2005-10	「環境指標」：海での人間の行動によるインパクト評価への構造的アプローチ	環境・漁業・水産養殖科学センター	1,058
2002-07	汚染物質混合体による生物への害	環境・漁業・水産養殖科学センター	633
2007-10	汚染堆積物管理戦略	Partrac 社	238
2004-09	海洋活動管理のためのガイダンスとその方法	環境・漁業・水産養殖科学センター	715
2004-09	富栄養化（Eutrophication）の監視と評価法の開発支援	環境・漁業・水産養殖科学センター	781
水の品質および環境			
2005-07	貯水池の安全（長い間隔の降雨期）	生態・水理研究センター	378
2004-08	河川流域管理計画の経済面に関する共同研究	Metroeconomica(UK)社	800

(参考資料：DEFRA

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=2&Cat1=13386&Cat2=13460&Cat3=&Cat4=&Cat5=

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=EP%3A170

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=1&Cat1=14562&Cat2=&Cat3=&Cat4=&Cat5=

13 Integrated Science for Integrated Management - Developing the Capacity for Adaptive Ecosystem Management

4-4) 持続可能な農村社会

当テーマについては 2007 年度より予算が約 200 万ポンドと約 3 倍に増えているが、研究プロジェクトの数はまだ少ないため、2006 年までのテーマの一部も掲載する。

(単位：1,000 ポンド)

期間	プロジェクト・テーマ	委託機関	予算
農村企業および社会的疎外			
2004-07	農村部における住宅へのニーズの実態とインパクト	ケンブリッジ大学	92
2005-06	社会的疎外 (social exclusion) 問題に取り組む公的機関の介入のインパクト	Community Development Foundation	24
2005-06	コミュニティー用の建物への助成とそれから派生する利益	Rural Partnership	95
2005-06	農村コミュニティーにおける郵便局の役割	MORI	74
2005-08	高齢化に関する長期的研究	UCL	50

(参考資料：DEFRA

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=2&Cat1=15254&Cat2=15259&Cat3=&Cat4=&Cat5=

4-5) 持続可能な農業および食料

(単位：1,000 ポンド)

期間	プロジェクト・テーマ	委託機関	予算
持続可能な農業および食料			
2006-09	フィールド規模の生物多様性への、新規作物の影響	ロサムステッド研究所	375
2007-11	問題を引き起こす広葉雑草の休眠に関する理解の改善	ウォリック大学	686
2003-08	品種改良とゲノミクスによる、短期成長林 (Short Rotation Coppice) の成長の改善	ロサムステッド研究所、サザンプトン大学	2,397
2006-09	農業からの温室効果ガスの排出量	Institute of Grass land and Environmental Research	1,045
2006-08	農業からのアンモニア排出量に関する最新データ	Institute of Grass land and Environmental Research	851
2006-09	食品冷蔵のためのエネルギー・インプットを削減する技術	ブリストル大学、ブルネル大学等、4 大学	1,084
2005-09	農業に対する、コンピューター・ベースの意思決定支援 ¹⁴ システム	クランフィールド大学	747
2004-09	穀物生産によるエネルギーの使用と窒素の排出への、遺伝子工学的な削減	ADAS UK 社	1,193
2005-08	堆積物およびコロイドに含まれるリンの草原内の移動	Institute of Grass land and Environmental Research	802
2005-08	イングランドおよびウェールズにおける土壌の浸食率	エクスター大学	409
動物の健康および福祉 (魚類を含む)			
2002-07	メス豚による子豚への攻撃性の遺伝子的原因の解明	ケンブリッジ大学	505
2004-08	おりに入れられていない産卵用鶏の骨の損傷の探知、原因およびその緩和	ブリストル大学	429
2004-07	家畜輸送トレーラーにおける動物の福祉および換気装置の最大限の活用	中央科学研究所	282
2006-09	家禽類のアカダニを抑えるワクチンの開発	Moredun Research Institute, SAC Commercial 社	527
2004-07	水質と養殖虹鱒の福祉との間の相関関係	環境、漁業、水産養殖科学センター、スターリング大学	295
2005-09	画期的で、人道的なガスによる豚の屠殺	ブリストル大学	677

¹⁴ Agriculture Decision Support (ADS)

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/More.asp?I=IS0219&SCOPE=0&M=CFO&V=UNCRAN

農薬			
2004-07	昆虫の免疫抑制及び内分泌攪乱による画期的な害虫駆除	中央科学研究所、sagro-Ricera社、ダーラム大学	698
2005-09	除草剤への抵抗力に関するデータ等の集約的管理	ADAS UK, BASF, Bayer UK, BBSRC 等 8 機関	483
2005-09	倉庫の害虫駆除用のバイオ農薬	BOCM Pauls 社、中央科学研究所等	393
2006-08	農薬とパーキンソン病の相関関係のメカニズムの解明 ¹⁵	Exponent International 社	907

(参考資料 : DEFRA

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=KW&V=Q&Lvl=1&Cat1=15581&Cat2=&Cat3=&Cat4=&Cat5=

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=EP%3A030A

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=EP%3A120A

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=PI%3A030

http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/projects.asp?SCOPE=0&M=PSA&V=NR%3A080)

¹⁵ http://www2.defra.gov.uk/research/Project_Data/More.asp?I=PS2608&SCOPE=0&M=PSA&V=NR%3A080

5. 筆者コメント

2007年3月13日、デービッド・ミルバンド環境・食料・農業大臣によって、「気候変動対策法案：Climate Change Bill」の原案が発表された。この種の法案は世界で初めてであり、大きな注目を浴びた。現在この原案は、2007年6月中旬まで、広範囲の関係機関とのコンサルテーションに入っている。

現在の DEFRA 大臣は、ブレア首相直属の政策ユニットの責任者を務めたことがある、41歳のデービッド・ミルバンド氏である。ミルバンド氏は、将来の労働党党首候補の一人と見なされており、この若手実力者のミルバンド氏が DEFRA 大臣に任命されていることは、英国政府が気候変動等に関する DEFRA の役割に、特に重大な関心を寄せていることの表れと思われる。今後、気候変動を初めとして環境問題は世界的により大きな問題になることが予想されており、DEFRA の活動の重要性は、より大きくなるであろう。

【気候変動対策法案（原案）の要点】

- * 英国政府が、二酸化炭素排出量を 2050 年までに 1990 年比 60%削減、2020 年までに 26%から 32%削減することを法的に義務付ける。
- * 最低 15 年先の削減目標を 5 年ごとに法的に設定する。
- * 気候変動対策委員会（Committee on Climate Change）を新設して、進捗を監視する。
- * 政府に、二酸化炭素削減政策を実施しやすくするための新たな権限を付与する。
- * 国会に対する、毎年の進捗報告を義務付ける。気候変動対策委員会は進捗に対する報告書を提出し、政府はそれに対する対応を義務付けられる。
- * 政府は最低 5 年に一度、気候変動による現在および将来へのインパクト、またそれへの対応策の提出を義務付けられる。

（参考資料：<http://www.defra.gov.uk/news/2007/070313a.htm>）

以上